

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成27年度採択分）
「日本をはじめとするアジア・アフリカ・中南米の染色体資源の保護と国際発信力強化」
（課題番号：15HP2012）

学術団体名：公益財団法人 日本メンデル協会
学術刊行物の名称：CYTOLOGIA
事業期間：平成27年度～平成31年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

1929年創刊のキトログイア（CYTOLOGIA）刊行の意義は、① 乱獲や自然破壊の進む地域での野生種の核型ゲノム分析、② 野生種の保護と有用生物資源の開発に必要な核型ゲノム分析、染色体、遺伝子、細胞とオルガネラに関する新知見の掲載であり、③ 国際的に深刻な問題となってきた放射線や環境汚染物質・農薬・食品添加物等が、生体はもとより遺伝子や染色体に及ぼす影響を各地域で核型ゲノム分析した結果や、④ 核型ゲノム分析、染色体、遺伝子、細胞とオルガネラに関する新しい研究手法や応用に関するさまざまな工夫などを掲載することにある。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

上述の活動を通じて、⑤ 細胞遺伝学を中心とする研究者の国際研究ネットワークの構築を目指しており、これらは日本をはじめとするアジア・アフリカ・中南米の染色体資源の確保や野生動植物の保護につながり、キトログイアの国際発信力の強化に大きく貢献することが期待される核型ゲノム分析や細胞遺伝学の基礎研究の成果を発信し続ける意義は今日より大きくなっている。キトログイアは、近い将来、中国に次いで形成されるアジア・アフリカ・中南米の学問拠点に、国際情報発信できる日本発の国際誌を目指している。

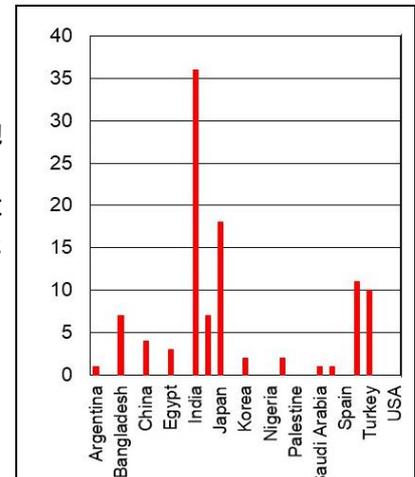


図1 国別投稿数（2016年度）

キトログイアは国際色豊かで、2011年以降だけでも25ヶ国からの投稿があった。図1は2016年度だけを示したが、この年だけで13ヶ国からの投稿があり、インドが36、日本が18で、他に中近東からの投稿が目立っていた。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

日本をはじめとするアジア・アフリカ・中南米の染色体資源の保護と同地域の国際発信力を強化するため、(1) 出版費用の国際支援（カラー化、審査費支援、別冊費支援など）と(2) 英文校閲費（掲載論文、投稿規定など）を計上して、英語を母国語としないアジア・アフリカ・中南米の投稿者を積極的に支援した。また、オープンアクセス化したキトログイアの国内外での普及を支援するため、(3) プロモーション活動費（完全電子投稿化の諸費用、ホームページ作成費、コンテンツの英文）を計上し、(4) 和田賞・キトログイア奨励賞の国際化によってアジア・アフリカ・中南米でのキトログイア普及の強化をはかった。また、A4判化と投稿審査システム（J-STAGE3 Editorial Managerタイプ）を導入した。IFも0.227から0.913へと大きく改善した。こうした国際情報力発信強化の試みによって、停滞気味だった投稿数は2013年87件から2016年109件へと上昇し、インパクトファクター（IF）も0.227から0.913へと大きく改善した。

・今後の計画

補助金終了後を見据えてキトログイアを財政再建する必要がある。キトログイアの主な財源は冊子頒布と会費収入になる。これらを確保するには、国際情報発信力が強化し、高い引用件数を誇る雑誌にする必要がある。PubMed再集録をはたらきかけるとともに、日本メンデル協会の会員組織を抜本的に改めより強固なものにする必要がある。

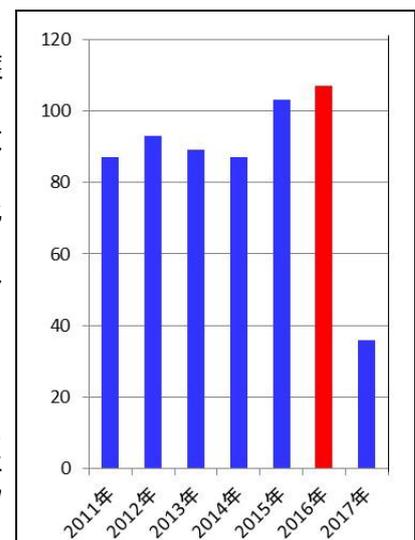


図2 投稿数推移（2017年5月）

各国からの投稿は維持されていたものの、2011年以降の投稿数はほぼ一定か漸減する傾向にあった。国際情報発信力強化を始めてからは、投稿数も上昇に転じ2016年は過去最高（109件）になっている。2017年はさらなる伸びが期待されている。